

オンライン会議 活用事例集

Microsoft Teams Rooms



- 半導体メーカー様
- 食品製造・販売会社様
- IT・通信サービス会社様
- 化学品原材料専門商社様
- 電子部品技術商社様
- 海運会社様



VTV ジャパン株式会社

<東京オフィス>

〒102-0073 東京都千代田区九段北1-11-11 第2フナトビル6階
TEL.03(5210)5021 FAX.03(5210)5022

<大阪オフィス>

〒541-0048 大阪市中央区瓦町4-5-9 井門瓦町ビル5階
TEL.06(4706)3930 FAX.06(4706)3931

* 本カタログの記載内容は2024年6月現在のものです。
* 利用シーンの写真には、はめ込み画像などイメージ画像が含まれます。
* 製品の外装・仕様は、予告なく変更される場合があります。製品の詳細や仕様などについては、営業担当にご確認ください。
* 会社名および製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

Teams Roomsの導入はVTVジャパンにお任せください！

Microsoft社の厳格なテスト基準をクリアしたTeams Rooms認定デバイスの中から、お客様の環境や利用用途に適した製品をご提案いたします。お気軽にご相談ください。



安心してお任せいただける支援体制をご用意

Teams Roomsのマルチベンダーならではの製品知識とMicrosoft社の認定資格を持つスペシャリストとして、運用面・技術面の双方からTeams Roomsの導入をサポートします。導入後の保守サポートもお任せください。

ご要望に沿った柔軟性に富んだシステム提案



Microsoftの認定資格取得者が導入をサポート



気になるメーカーのTeams Roomsやデバイスの比較ができるデモを実施



パッケージ製品から、映像・音響機器による会議室構築まで幅広くご提案



Microsoft Teams Rooms導入支援プログラム

Teams Rooms導入に際し、Microsoft365の設定に不安がある場合に、VTVジャパンの知見・実績を活かしてアドバイスする有償プログラムです。お客様が安心してご導入いただけるよう、2つのプランをご用意しています。



Microsoftの公開ページのみでは不十分なので、もう少し詳しく設定の流れを知りたい

MTRベーシック

- Teams Rooms設定ドキュメントの提供
- Teams Rooms実機貸出(1週間)

【前提条件】

Microsoft365がシンプルな環境であること
IdaaS(多要素認証)、セキュリティ(Windows Defenderなど)、認証(AD、SSO、Proxyなど)、管理(Intuneなど)を利用していないこと。



Microsoft365の環境がシンプルではないので、知見にもとづくアドバイスがほしい

MTRプロ

- Teams Rooms設定ドキュメントの提供
- ベストエフォートのアドバイス対応
- Teams Rooms実機貸出および現地動作確認

【アドバイスの範囲】

Microsoft管理センター、Teams管理センター、Exchange Online管理センター内の以下項目
・MTRにかかわるアカウント関連（アクセス権、ポリシー、メール機能に関するものを除く）
・MTRアカウントに必要なPowerShell操作

Microsoft Teams Rooms出荷前キitting・設置サービス

出荷前キitting

機器納品時に安心してご導入いただくための必要不可欠な作業です。機器の動作確認はもちろん、各アプリケーションを最新版にアップデートして出荷いたします。

設置サービス

弊社の標準的な設置サービスでは、Teams Roomsだけでなくテレビ・スタンドも含め、日本全国（離島及び一部地域を除く）一律料金で提供しております。

※会議室インテグレーションの内容に応じて専門技術者の対応が必要な場合、別途お打ち合わせの上価格をご案内いたします。

Microsoft Teams Rooms保守サービス

お客様のご要望に合わせてお選びいただけるプランをご用意しています。

コールサポート

製品交換代替機貸出

オンサイト保守

東京・大阪のショールームでデモンストレーションを実施中！
デモのお申し込みやご相談は Web サイト、またはお電話で！

東京：03-5210-5021
大阪：06-4706-3930

VTV デモ

Microsoft Teams Rooms導入事例

テレビ会議システム+CVIで行っていたTeams会議を一新
Teamsの専用機導入と会議室設備のリプレイスで会議品質の向上を実現

User Profile

半導体メーカー様

事業内容：半導体等の研究、開発、設計、製造
及び販売

導入年月：2023年10月

半導体メーカー様は、日常的に、オンライン・オフラインでの会議や社内イベントを行っていました。オンライン会議はテレビ会議システム(H.323)を利用しており、Microsoft Teamsの会議にもテレビ会議システムからCVI(Cloud Video Interop: Teamsへのゲートウェイ機能)を利用して参加していました。しかし、テレビ会議システムに搭載されているカメラやマイクなどのスペックがこの会議室の規模やレイアウトでは不足していたため、せっかく搭載されていたオートフレーミング機能が

活かされず、接続先では誰が発言しているかわからない、音も聞きとりにくいという問題を抱えていました。また、オフラインでの利用時は、会議室前方の司会者や発表者の声が、後方の席まで届かず、持ち運びタイプのスピーカーとマイクを利用されていました。

会議やイベントのたびに使いづらさを感じていた同社は、会議室にある機材をより快適に利用できるよう、会議室に適したシステムや設備へのリプレイスを検討することになりました。

Teamsでの会議は使いやすく、オンライン・オフラインでもAVシステムを簡単に活用できる環境を

ご相談を受けた弊社担当は、同社へ現地調査とヒアリングを行いました。まずはご要望を伺ったところ、現在のテレビ会議システムの運用をやめてTeamsメインに移行したい、縦に細長く、前方と後方に距離がある同社の会議室に合ったオンライン・オフラインの両方に対応する映像・音響設備を導入したい、という回答をいただきました。実際の会議室を見てみると、前方と後方に距離があるため、前方以外に左右にもモニターが設置されており、これを活かした提案をすることになりました。

まず、オンライン会議のメインツールをTeamsに移行するにあたり、会議室向けTeams専用機の「Microsoft Teams Rooms」へのリプレイスを提案しました。これにより、今まではツールごとに異なっていた会議予約や接続方法が統一され、ユーザーにとって使いやすいオンライン会議環境を提供できます。

そして縦長の会議室でオンライン・オフライン共に最適な映像・音声環境を実現する方法として、マイクとスピーカー天井に埋め込み、音響

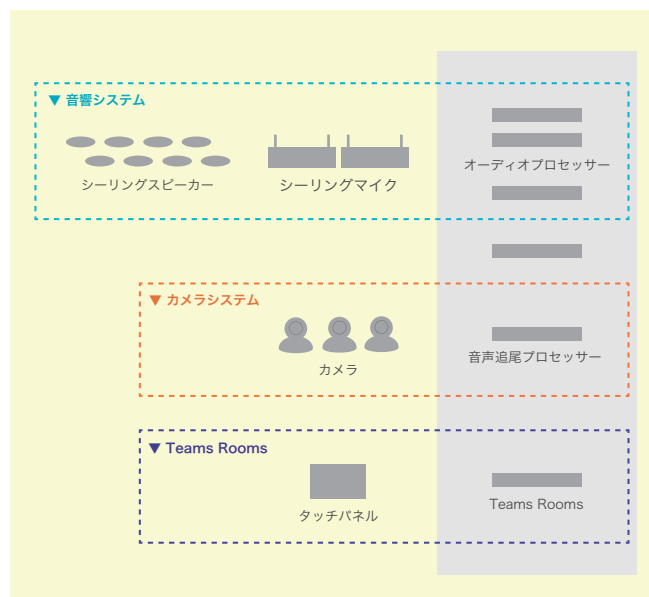
システムとカメラシステムを連動させる方法を提案しました。今回提案した音響システムはボイスリフトに対応しており、前方のマイクで集音した音声は後方のスピーカーから、後方のマイクで集音した音声は前方のスピーカーから最適な音量で拡声するので、どの席から発言しても音声を参加者全員に届けることができます。

映像はカメラシステムを音響システムと連動させ、話者の音声から位置を検知してカメラの向きを切り替える話者追尾機能を取り入れることで、オンライン会議で発言している人の映像が自動で相手拠点に配信されます。

上記の仕組みをベースに、カメラの台数や映像切り替えの操作方法などをいくつかのパターンで提案し、実機デモで品質や使い勝手を確認いただきました。同社で検討を重ねた結果、会議室での会議やイベントを行うのに一番ストレスのないソリューションを選択されました。

マイクの位置を気にせずに発言できる！オンライン会議特有の制約によるストレスが減少

運用が始まり同社のご担当者にご利用状況をお尋ねしたところ、「どの席にいても話者の声が良く聞こえるようになった」「話者の映像が映るようになり、誰が話しているのかが分かり表情も読み取れるようになった」「会議前の準備が簡素化され、準備時間が短縮された」とお話しいただきました。また、今回のソリューションで会議室整備の効果を実感された同社から、他の会議室についてもご相談をいただいております。会議室環境整備に向けて取り組みを進めていく予定です。



Microsoft Teams Rooms導入事例

Microsoft Teams Roomで新コミュニケーション環境を構築
従来のシンプルな利用方法はそのままに、密な部門間連携をサポート

User Profile

食品製造・販売会社様

事業内容：加工食品の製造・販売

導入年月：2024年1月

食品製造・販売会社様では、販売・製造・配送3部門間の連携強化を目的に、テレビ会議システムとクラウド型多地点接続サービスを組み合わせ、営業所・工場含む全国8拠点を接続していました。そんな中、多地点接続サービスの提

供会社からサービス終了の通知が届き、現在の環境を継続することが困難になりました。サービス終了までの半年弱で新たな環境を整えるべく、VTVジャパンにご相談いただきました。

シンプルな使い方を維持しながら、既存環境の課題を改善できる機器構成を提案

食品製造・販売会社様は新環境移行にあたり「今までと同様の運用ができること」を最も重要視していました。テレビ会議の用途を朝礼・夕礼、業務連絡に絞り、各拠点の社員が当番制で接続を担当するシンプルな使い方を踏襲し、新環境移行への混乱や抵抗感を最小限におさえることがねらいです。

そこでVTVジャパンは、同社が契約しているMicrosoft Teamsを介してTeamsの専用機「Microsoft Teams Rooms」で8拠点接続することを提案しました。Teamsが多地点接続サービスに代わって各拠点をつなぐ点と社員になじみのある専用機を利用する点で、既存環境と親和性が高いと判断し、Teams Rooms導入にむけての検討が開始されました。

食品製造・販売会社様では設備の予約・調整や移動時間を短縮するため、販売部門のある営業所は執務エリア、製造・配送部門は工場内それぞれの作業エリアで機材を利用しています。異なる利用環境に合わせた機器を提案するため現地調査を実施したところ、既存のテレビ会議

システムに付属しているマイクでは十分に集音ができておらず、一部の社員は音が聞こえづらいと感じていたことが判りました。

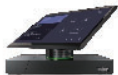
現地調査の結果を踏まえ、外部機器接続に対応したLenovo社のTeams Roomsをベースに、営業所の執務エリアにはマイク・スピーカー内蔵のコラボレーションバーと広角カメラを、大規模拠点の執務エリアと工場の業務エリアにはワイヤレスマイク、スピーカー、PTZカメラを組み合わせ利用する構成をご提案しました。

そして検討の結果、Teams Rooms導入において現地調査にもとづく機器提案から設置、保守サポートまで一気通貫での対応が可能な点、新旧環境の並行期間を含めた導入スケジュールをたてることができた点をご評価いただき、VTVジャパンの提案を採用いただきました。

【小規模営業所の執務エリア】



会議に必要な機材一式は、接続テストを実施のうえ執務エリアの全景が映り音声がちんと集音できる位置になるよう調整

Lenovo
ThinkSmart Hub Gen2Lenovo
ThinkSmart BarLenovo
ThinkSmart Cam

【大規模営業所・工場内作業エリア】



環境音の入りやすさを考慮し、ノイズがをひるいにくいワイヤレスハンドマイクを利用ケーブルに起因するトラブルの防止策としても有効

AVer
Can 520 Pro3Shure
ワイヤレスマイク式ヤマハ
MSP 3A

新旧環境の並行利用期間を経て、万全の状態の新環境へ

導入機器一式が決定した時点で多地点接続サービスの提供終了まで3か月をさっていました。機材の調達・設置をスピーディーに進行させ、1か月の並行利用を経て、新環境への移行が完了しました。並行期間中、VTVサポートデスクと連携しながら、機材の使用方法や新旧環境の違いなど、社員からの問い合わせに対応していたことで、新環境移行後は

大きなトラブルもなく利用できています。

タッチパネルで操作ができることや、以前より音声が聞き取りやすくなったことなど、社内からも好評をいただいているそうです。

今後もお客様の事業を支える3部門の連携をサポートするコミュニケーションツールとして、ますます活用されていく予定です。

Casestudy Portfolio オンライン会議活用事例

Microsoft Teams Rooms導入事例

本国から手配された機材がトラブル続きで運用が困難に
会議を止めないシンプルで切り分けしやすい製品にリプレイス

User Profile

IT・通信サービス会社様

事業内容：データセンター構築・運営

導入年月：2024年2月

アジア5か国にデータセンターを展開する外資系IT・通信サービス会社の情報システムのご担当者は、海外本社からの指示で会議室に設置したMicrosoft Teams Roomsに頭を悩ませていました。

運用を開始したものの故障が多く、機材の再起動と接続テストが毎日の日課になっていました。Windowsベースで配線の多いその機材は障害箇所の切り分けが難しく、購入したベンダーに問い合わせたものの解決

方法が見つかりませんでした。度々会議ができない状態に陥り、ユーザーからの頻繁な問い合わせに困っていました。自力で再インストールまで試みたものの、まったく埒が明かない状況下で、ご担当者がMicrosoft Teams Roomsに詳しく保守を担当してくれそうなベンダーを探していたところ、VTVジャパンを見つけて問い合わせをすることになりました。

運用改善のために機材変更を提案。根本的解決を目指す

ご連絡を受けたVTVジャパンの担当は、早速オンライン会議で打ち合わせを実施して現在の状況とこれまで対応された経緯を伺いました。いくつかご質問しながら設定を確認いただきましたが、状況は改善されません。システムの設定を元に戻すのにも、障害の原因をつきとめるのにも時間がかかりそうだと判断した担当は、配線や設定が複雑な現在のシステムから新しいシステムに入れ替えることを提案しました。

この提案を受けて同社は、「トラブル解消までにこれ以上時間をかけたくない」、「設定を戻すことができて根本的な解決にはならない」、

「会議をとめることのない製品へのリプレイスが、今後オンライン会議を利用するうえでユーザーにも管理者にもメリットがある」と考え、新しいシステムへの入れ換えを決断されました。

新しいMicrosoft Teams Roomsの機器選定において、配線の複雑さに悩まれていたご担当者のためにできるだけシンプルな構成をおすすめしたいと考えたVTVジャパンは、カメラ、マイク、スピーカーが一体のバー型モデル「Neat Bar Pro」を提案しました。Androidベースのこの製品は、配線が電源コードとLANケーブル、モニター接続用とPC共有用のHDMIケーブルのみ、というとてもシンプルな構造です。バー型モデルは設置場所によってはマイクの集音範囲やカメラの画角などが問題になることがありますが、今回の会議室は6名程度の比較的小さめの会議室ということもあり、Neat Bar Proのスペックで充分問題はないと判断しました。

とはいえ、実際にユーザーに触っていただかないとこちらでは気づけない問題点が見つかることがあります。製品を決定する前に同社への持ち込みデモを行って操作感を確認していただくことにしました。現在ご利用の機材と入れ替えるだけでしたので、Microsoft365のテナント側の設定変更の必要がなく、短時間で設置してお試しいただくことができました。今後問題なく使っていただけたらということをご担当者にご確認いただき、本製品の導入が決定しました。

お問い合わせをいただいてからひと月もかからずに導入できたこともあり、「レスポンスがとても速くて助かりました」と弊社の対応にも高評価をいただきました。



ケーブルが減ることで障害切り分けもシンプルに

導入後も保守加入で会議を止めない運用を

同社は現地法人の社内ITを1人で担当されていたので、今までのMicrosoft Teams Roomsのトラブルでは、会議の度に呼び出されてかなり苦勞をされていたようです。

Neat Bar Proを導入後はユーザーから呼び出されることもなく、安定してお使いいただいておりますが、この機会に弊社が提供する保守サービスにご加入いただきました。

VTVジャパンでは自社内にヘルプデスクを設置していて、オンライン会議専任のサポートチームがトラブルや障害切り分けをお手伝いしています。万が一機材が故障した場合も代替機保守にご加入いただいておりますので、バー型の本体をそのままお取り替えして会議を止めない運用が可能になりました。

今後も担当営業ともども、同社のサポートを行ってまいります。



Microsoft Teams Rooms導入事例

取り扱い製品の豊富さを活かし、さまざまな要件を満たす構成をご提案
レイアウト変更や会議室移動にも柔軟に対応できる会議環境を実現

User Profile

化学品原材料専門商社様

事業内容：化学品原材料の輸出入、国内取引
導入年月：2024年3月

全国に拠点を持つ化学品原材料専門商社様は、以前からテレビ会議システムで東京、大阪、神戸、名古屋の主要4拠点間をつないで会議を行っていましたが、コロナ禍を経てMicrosoft Teamsが自社のメインツールに落ち着き、重要会議もTeamsで行われるようになりました。テレビ会議システムはTeamsと互換性がなく利用できないため、会議室からはマイクスピーカーでPCの音声を拡張してTeamsの会議に参加していました。しかし、長年テレビ会議システムを利用してきた社員から

映像・音声のクオリティの悪さや操作性や会議準備のわずらわしさを指摘されていました。

会議室からの参加は専用機がよいとの要望が高まり、Teamsの会議室向け専用端末であるMicrosoft Teams Roomsの導入検討を開始し何社かのベンダーに連絡を取り、その内の一社としてVTVジャパンにも声がかかりました。

要件に対する最適解を盛り込んだ提案内容が採択され、導入が決定

VTVジャパンの担当は同社に最適なお提案を行うために、ヒアリングを実施したところ、Teams Roomsを導入する会議室の詳細は以下でした。

- ・ 導入する会議室は東京、大阪、名古屋、神戸の4拠点
- ・ 東京の会議室は広くレイアウト変更あり
(セミナー：スクール形式/全社会議：コの字型レイアウトなど)
- ・ 大阪は複数会議室での利用を想定
- ・ 名古屋・神戸の会議室は8~10名程度の定員

特に東京の会議室は役員会議などの重要会議で利用されるほか、セミナーも行われるなど一般社員の利用頻度も高く、どのようなレイアウトで利用しても映像・音声のクオリティを担保する必要があります。お客様のご要望と現地調査の結果を元に、すべてのTeams Rooms認定デバイスは共通の操作画面で利用できる特長を活かし、次のポイントを踏まえた提案を行いました。

Shure社のワイヤレスマイクのMXWシリーズ
マイクの本数、種類を自由に選択して構成可脳



セミナーや全体会議には話者の声のみをクリアに集音するハンドマイクを

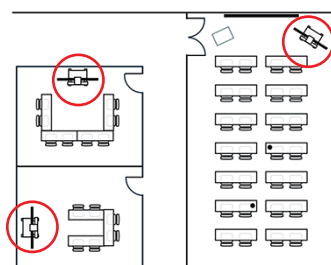


バウンダリーマイクは半径1.5m内の声をしっかり集音できるので
ディスカッションの多い会議にも対応



- ・ 東京の会議室はレイアウト変更にも対応可能なPTZ光学カメラと種類の異なるShureのワイヤレスマイクで構成、Teams RoomsにはAV機器と接続が可能なLenovo社のThinksmart Coreを選定する
- ・ 大阪の会議室はマイク・スピーカー・カメラ一体型のYealink社のMeetingBar A30を選定。オプションの純正ワイヤレスマイクで集音範囲を広げ、資料共有もワイヤレスドングルを追加。極力ケーブルを減らして、すべての機器はモニタースタンドに取り付けてスムーズに会議室を移動できる構成にする
- ・ 名古屋・神戸の会議室は将来移動させて利用することを想定し、大阪と同じ構成にする

上記内容で提案を行ったところ、「大変わかりやすく、しっかりとした提案だった」とご評価いただき採用が決定、導入がスタートしました。



大阪は同じフロアの3つの会議室で共用



Yealink社はワイヤレスマイクやワイヤレス資料共有などのワイヤレスに特化したオプション機器が豊富



マニュアルサービスと保守サービスにもご加入いただき導入後もサポートを継続

提案内容を元に打ち合わせを開始したところ、Zoomの会議にも出席できるかどうかのご質問をいただきました。今回導入する機器に持ち込みPCを接続してPCから接続する方法と、機能制限があるもののMicrosoft Teams Roomsのタッチパネル操作のみで参加できる方法の2通りがあることをご説明しました。Microsoft Teams Roomsの機能を使うことを選択されましたが、このZoomの会議への接続方法も

含めてレイアウト毎にマイクの使い分け方法など、ユーザーから操作方法や設置について問い合わせが増えることを考慮され、今回の導入機器全般の操作マニュアルの作成もご依頼いただきました。コールサポートがついた保守サービスにもご加入いただくことで、同社のご担当者の負担を軽減したオンライン会議の運用をサポートしてまいります。

Casestudy Portfolio オンライン会議活用事例

Microsoft Teams Rooms導入事例

テレビ会議システムからMicrosoft Teams向けの会議環境へ刷新
担当者の業務を支援するプログラムを採用してスムーズな導入へ

User Profile

電子部品技術商社様

事業内容：半導体や電子部品の販売

導入年月：2023年12月

電子部品技術商社様は以前からテレビ会議システムを使用して社内外の打ち合わせや海外オフィスとの業務を円滑に進めてきましたが、既存システムの保守終了日が近づいてきたため、新たなコミュニケーション基盤としてMicrosoft Teamsを採用し、会議システムもMicrosoft Teamsに対応する製品に見直すことを決定しました。同社では今まで

利用してきたテレビ会議システムのように、会議室に専用機を常設する運用が望ましいと考えました。そこで、複数のベンダーにMicrosoft Teamsの専用機であるMicrosoft Teams Roomsの提案を依頼しました。同社から依頼を受けたパートナー企業より弊社に協力依頼があり、共に導入提案に参加することになりました。

快適なオンライン会議環境を実現する提案内容とデモンストレーションが導入の決め手に

お客様は事前調査の段階で、導入候補となるYealink社のMicrosoft Teams対応製品に絞り込みをすませていましたが、お客様が快適にMicrosoft Teamsで会議を行える環境を実現するには別製品を基軸にした構成が最適だと考え、パートナー企業と相談の上で指定製品とは別の製品を提案することになりました。

弊社が提案したのはAndroid OSを搭載し、カメラ・マイク・スピーカーが内蔵されたバー型製品「Yealink MeetingBarシリーズ」です。この製品は、本体と操作のタッチパネルによるシンプルな構成で容易な配線ができる運用面のメリットと、導入コストを抑えられる費用面のメリットがありました。また、MeetingBarシリーズが同社の要望を満たすことを理解していただくために、弊社営業担当とサポートチームは、同社のご利用環境に近い会議室でMeetingBarの音声・映像品質と機能を検証した動画を提出しました。

弊社の提案内容に興味をお持ちいただき、デモンストレーションを行うことになりました。まずは弊社の2つの会議室それぞれにMeetingBar

A30とA20を設置し、実際に会議を開催してカメラ機能、集音範囲、タッチパネル操作、PCからの資料共有のワイヤレス化などをご体感いただきました。

後日、お客様に弊社の提案を選定いただいた理由を伺ったところ、「バー型製品の音声・映像品質が予想以上によく、自社でも使いこなせるイメージが持てたことです。実は、Android OS製品については過去の実験から動作に対して不安がありましたが、デモンストレーションを通して払拭することができました」とお話しくださいました。

この後、実際の会議室での持ち込みデモを実施し、導入が決定しました。



今回導入されたYealink MeetingBar A30(左)とA20(右)

導入とその後の運用までをサポートする2つの独自プログラムも評価

今回は、Teams Roomsソリューションの提案と併せて、導入担当者の製品導入における業務を支援するための2つ弊社独自のプログラムを2つご提案しました。

1つ目はMicrosoft Teams Rooms導入時にMicrosoft365への必要な設定を支援するプログラムです。同社ではMicrosoft365の構築支援は別ベンダーと契約していましたが、Microsoft Teams Roomsに関する設定は対応範囲外となるため、悩まれていたところでした。このプログラムでは、弊社担当がオンラインでお客様と一緒にMicrosoft365の設定を行います。設定画面を共有しながらひとつひとつ設定を進めるため、お客様も安心して設定を行うことができます。

2つ目は、海外拠点への導入を支援するプログラムです。

通常、海外拠点への導入は、各国の拠点担当が現地ベンダーを探して対応する必要がありますが、このプログラムでは弊社がお客様に代わって現地ベンダーと連携して導入計画を管理・進行します。本プログラムを

ご利用いただくことで、導入担当者の業務負担を軽減し、導入までのスピードを早めることができます。

国内拠点の運用が始まり、大きな問題がないことを確認した後、海外拠点のリプレイスに着手しました。元々、本社の情報システム部門が海外拠点の管理を担っていましたが、本プログラムを利用することで現地担当の負担を抑えながら、一括して海外6拠点への導入をコントロールすることができました。管理のしやすさから、国内・外ともにMeetingBarで統一することを前提としましたが、拠点ごとに大会議室向け製品がいいのか中会議室向けがいいのか、拡張マイクは必要かなどを弊社を通じて海外ベンダーに現地調査を依頼することでもきて導入を円滑に進めることができたこと、お客様からご評価いただいています。

設置後の通信テストでは、海外拠点、国内本社、弊社を接続し、正しく設置されていること、通信に問題がないことを確認しました。

担当者と連携し、国内・外拠点の社内ユーザーをサポート

Microsoft Team Roomsに切り替わってからご利用状況を伺ったところ、Outlookでの会議予約操作や会議参加方法など大きな問題もなく運用できているとのコメントをいただきました。保守サービスにご加入いただいているので何か問題が生じた際はご担当者から弊社サポート

デスクへ、海外拠点は現地ベンダーまたは弊社サポートデスクへお問い合わせいただき、対応する仕組みを整えました。また、お問い合わせいただいた内容をご担当者に共有するなど連携をとりながら、快適な会議環境を維持することに努めています。

Casestudy Portfolio オンライン会議活用事例

「会議室」と「リモート」、両参加者の会議体験を向上 Microsoft Teams RoomsとAV機器で よく聞こえ、しっかり伝わるオンライン会議環境を実現



User Profile

海運会社様

事業内容：輸出入貨物の海上輸送

導入年月：2023年1月

国内外に拠点や関連会社を持つ海運会社様は、社内外のコミュニケーション手段としてテレビ会議専用機を利用してきました。そんな中、コロナ禍により在宅勤務と出社勤務で勤務形態が分かれる社員のコミュニケーションツールとして、Microsoft Teamsが利用が増加しました。当初出社中の社員は、PCにヘッドセットを接続して自席からオンライン会議に参加することもありましたが、オフィス内では声が響いてしまうため、次第に会議室から参加するようになりました。

会議室でオンライン会議を利用する際は、同社の情報システム室が管理するマイクスピーカーを貸し出し、社員のPCと接続するスタイルをとっ

ていましたが、機材の扱いに不慣れな社員からのサポート依頼が相次ぎました。

「会議のたびに機材を借りて準備をする側も、それをサポートする側も不便さを感じていたと思います。また、在宅勤務の社員と出社している社員がオンライン会議をする際、会議室の機材の配置によって参加者が映りきらず会議室の様子がわからないことや、声の入りの悪い場所があるなど、在宅勤務側にはストレスだけでなく、得られる情報にも差がありました。差を完全に埋めることは難しいですが、少しでも在宅勤務側の得られる情報を増やしたいと考えていました」と担当者様は当時を振り返ります。

抱えていた問題・課題

- ・ 会議室でのオンライン会議時のユーザーや管理者の負担を軽減したい
 - ユーザーは、会議の度に情報システム室からマイクスピーカーを借りて接続準備をする必要があった
 - 社員からのサポート依頼が相次ぎ、情報システム室の業務負荷が増えた
- ・ 参加場所の違いによって生じる「オンライン会議で得られる情報量の差」を埋めたい
 - カメラに映りきらない参加者の様子がリモートの参加者からわかりにくかった
 - 会議室のマイクの配置によって音声聞き取りにくく、リモート側がストレスに感じていた

会議室でのオンライン会議の利便性を改善するためにMicrosoft Teams Roomsの導入を検討

課題を解決する方法として、機材準備を必要としない据え置き型の会議室向け機材について調べていたところ、Microsoft Teams Roomsが目に入り、VTVジャパンのデモルームで実機を見学することになりました。VTVジャパンのデモルームでは、カメラ・スピーカー・マイク一体モデルや、インテグレーション向けモデルなど異なる種類のTeams Roomsを映像・音声などの品質面から、会議の予約・開始などの運用・操作面にわたり、さまざまな面から確認を行いました。

ご担当者は、当時のMicrosoft Teams Roomsソリューションについて「はじめてTeams Rooms同士の通信を見たときは、映像・音声の良さ

に驚きました。デモルームでは、一体型と分離型のモデルを見学しましたが、スピーカーとマイクが離れた場所に設置されている方が、聞こえてくる音声によりクリアに感じました。Webサイトの情報だけではわかりづらい運用にかかわる部分も、実操作で確認できたことで、これなら社内での利用に問題はなさそうだと判断できました」と述べています。

デモルームでの評価と、同社のIT機器のOSがWindowsで統一されていたことから、外部機器との拡張性に優れたWindows OS搭載のインテグレーション向けモデルと音声・映像機器の組み合わせを検討していくことになりました。

「品質」と「運用」のバランスがとれた機材構成を選択

システム要件

- ・ オンライン会議中の音質・画質の向上
 - 在宅勤務の参加者にも会議室側の様子がわかる
 - こちらの音声も明瞭に相手に届き、且つ相手の音声も明瞭に聞こえる
- ・ 会議室のレイアウト変更に対応できる

Microsoft Teams Roomsと組み合わせる映像・音響機器は「品質」と「運用」を重視しながら検討が進められました。同社が導入を予定している2つの会議室は収容人数も多く、会議ごとにレイアウトを変更しながら利用されています。映像・音声品質はもちろんですが、会議室のレイアウトを変更しても使いやすさを損なわないことが必須でした。

これらの要件を踏まえ、VTVジャパンがいくつか提案した機器構成の中から、集音性に優れたShure製のバー型マイクを含む映像・音声機材と、機材一式をキャスター付きのカートに載せて利用する方法が採用されました。

「検討初期にご紹介いただいたシーリングマイクやグースネックマイク

は会議室内のどの場所から話しても音声を拾える点で、弊社にとって一番理想的ではありましたが、会議室レイアウト変更の際に不都合がおきると判断しました。音声品質とレイアウト変更に対応できる利便性のバランスがとれる構成を選択しました」と、担当者様は選定理由を説明します。

検討の最終段階として、お客様環境に機材を持ち込んでのデモを実施しました。「デモルームを見学した際の映像・音声があまりにも良すぎたため、“デモルーム”という環境に由来している可能性を踏まえて、自社内でも品質を確認する必要がありました。」(担当者様談) そして、実環境下でも通信品質が確認でき、Microsoft Teams Roomsソリューションの正式な導入が決定しました。

ソリューションのポイント

- ・ 社内のIT機器(PCやサーバー)とOSを統一
- ・ 集音性に優れたマイクを中心とした機器構成でMicrosoft Teams Roomsの映像・音声機能を拡張
 - 柔軟なカメラ調整機能を搭載したPTZカメラを選択
 - 相手側の声がよく聞こえるよう、スピーカーは独立させる
 - 集音範囲が広く、キャスター付きカートに取り付けた状態でも集音可能なShure製バー型マイクを採用
- ・ キャスター付きカートを活用し、会議室のレイアウト変更に対応
 - 機材の設置場所を固定せず、会議に必要な機材一式をキャスター付きカートにまとめて移動可能に
 - タッチリモコン以外は卓置き不要に

社員が自分で使える利便性の高い会議環境を実現

導入効果

- ・ 会議室でのオンライン会議の利便性が向上
 - 会議用機材が据え置きになったことで接続準備がなくなり、サポート依頼件数が減少
 - スケジューラー経由で社員自身が予約・利用できる仕組みが整い、ユーザーの利便性が向上
 - Direct Guest Join機能で、Zoomの会議にも同じ機材から接続可能に
- ・ 映像・音声品質が向上し、ユーザーが違和感なくオンライン会議ができる環境を実現

導入直後は社員からの問い合わせに対応することもありましたが、2~3か月ほどでMicrosoft Teams Roomsの利用が社内に定着しました。

「ここ最近、トラブルはほとんどありません。現在は情報システム室でトラブルの主な原因や対処法を把握しているので、ごくたまにトラブルがあった時も問題なく対応できています。品質面についても、違和感なく利用できているようです。何より、機材が会議室据え置きになったことで、社員がスケジューラーから設備を予約し自分たちで使えるようになり、利便性が大きく上がりました」

同社のメインツールはMicrosoft Teamsですが、取引先や関係会社からZoomでの会議参加を依頼された際は、会議IDを入力してそのままZoomの会議に参加できる「Direct Guest Join機能」が有効に活用されています。

同社内で概ね好評なMicrosoft Teams Roomsソリューションです

が、実際に利用してみてわかることもありました。

「現在、会議用のカメラはテレビモニターの上に取り付けており、会議室全体の様子が分かるようにしています。会議室同士での接続の場合は気にならないのですが、在宅勤務中の参加者にとっては、他の拠点を上から見ているような構図になるため、一体感を優先するならカメラを低い位置に変更しても良いかもしれません。また、会議室同士での接続の場合は、自然とマイク側を向いて発言するので問題ないのですが、在宅勤務中の参加者がいる打ち合わせでは、会議室側が会話に夢中になって時折マイクに背を向けてしまうことがあるので、参加の際は座席の配置に配慮するようにしています」

今後も在宅勤務の参加者と会議室の参加者の情報量の差を埋める工夫を加えながら、同社の社内外コミュニケーションツールのひとつとして、活用が進んでいく予定です。

今回導入したソリューション



Microsoft Teams Rooms
Lenovo ThinkSmart Core



PTZカメラ
Aver CAM520 Pro2



シーリングマイク
Shure MXA710



オーディオプロセッサソフトウェア
Shure Intellimix Room



スピーカー
Yamaha MSP3A



キャスター付きカート
Hamilex PH-917